

かつてない超低金利時代が続く日本。もはや「銀行にお金を預けておけば安心」という時代ではない。公的年金以外の資金が必要とされた「老後2000万円問題」も記憶に新しい中、大切な資産をどのように運用管理するべきか。日本でも知られていない、海外の著名ヘッジファンドが購入できるエアーズシー証券の代表取締役を務める栗原友紀氏に、これから資産形成について聞いた。

マーケットの変動に対応する運用手法

——欧米の富裕層はポートフォリオにヘッジファンドを組み込むのが一般的です。なぜ好まれているのですか。
栗原 日本ではヘッジファンドといえばハイリスク・ハイリターンでの投機商品というイメージが強いかもしれませんが、そもそもヘッジファンドは短期に取引するものではありません。当社が取り扱っているものも、長期運用に耐えられる、リスクの低い安定的なファンドです。

また、「ヘッジファンド＝ハイリスク」という誤解もよく聞きます。日本では、ヘッジファンドは価格の変動性が大きく、もうかる反面大きな損失を出す可能性もある危険なファンドという認識が広まっていますが、ヘッジファンドはマーケットの上下に左右されない運用手法を基本とした、マーケットニュートラル(市場中立型)なファンドが基本です。アメリカ

した商品を扱っています(図1参照)。——プロが競い合う市場に個人が参入することは危険ではないのでしょうか。証券会社が倒産した場合のリスクヘッジについても教えてください。
栗原 実は金融のプロが競い合うヘッジファンド市場こそ、マーケットの平均より優れた運用を可能にするものなんです。アメリカのハーバード大学やイェール大学などがヘッジファンドで運用しているのも安定収益を期待しているからです。現在は円安が進んでいますが、こうした為替リスクにも対応するため、円を含め6通貨の中から自由に通貨を選択できるファンドもご用意しています。

海外の著名ファンドが10万米ドルから購入できる

——初めてヘッジファンドを購入する際、失敗しないコツを教えてください。
栗原 ヘッジファンドは5年~10年という長期運用で考える商品です。目先のマーケットの動きに惑わされず、長期間を想定し、低リスクのトラッキングコード(実績があるファンドを選択することが肝心です。当社で取り扱うヘッジファンドには、

エアーズシー証券

**【過去10年で運用資産が2倍になった実績も】
安定型ヘッジファンドの
長期運用で「72の法則」を実現**

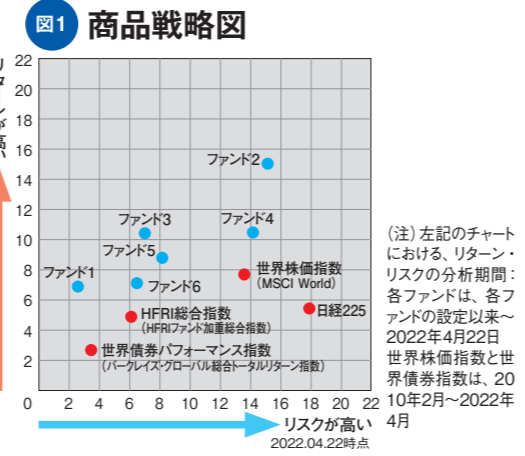


図2 同社が取り扱うファンドの設定以来ネットリターン(諸費用控除後)

暦年	ファンド1	ファンド2	ファンド3	ファンド4	ファンド5	ファンド6
2021	2.93%	22.87%	-21.08%	3.22%	10.47%	4.31%
2020	9.97%	13.90%	39.16%	19.99%	-9.82%	10.84%
2019	5.28%	21.47%	20.91%	0.46%	12.23%	12.92%
2018	3.53%	-6.81%	18.92%	-9.87%	3.52%	6.14%
2017	5.34%	28.86%	11.81%	14.96%	11.28%	7.79%
2016	7.55%	14.80%	14.68%	-0.25%	11.78%	-5.79%
2015	8.81%	7.57%	—	9.73%	13.56%	6.97%
2014	5.19%	17.12%	—	13.78%	8.95%	17.23%
2013	7.26%	34.00%	—	26.19%	13.48%	—
2012	3.68%	21.52%	—	14.46%	7.72%	—
2011	6.44%	-3.54%	—	-2.06%	27.75%	—
2010	6.41%	9.90%	—	5.47%	19.10%	—
2009	20.34%	36.18%	—	22.27%	—	—
2008	5.71%	—	—	-7.03%	—	—
2007	—	—	—	20.96%	—	—
2006	—	—	—	22.47%	—	—

●本資料は、エアーズシー証券株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。●本資料は、信頼できる情報に基づき作成しておりますが、含まれる情報の正確性や完全性、また使用された市場情報源の正確性や信頼性を保障するものではありません。●本株式の過去の運用実績に関する分析の提供は、将来の運用成績を示し保障するものではありません。●本株式のお取引は、金融商品取引法第37条の6の規定の適用は無く、クーリング・オフ(書面による契約の解除)の対象にはなりません。●本株式のお取引は、特定口座の適用外となり、確定申告を必要とします。●エアーズシー証券株式会社における本株式のお取引は、私募のお取り扱いになります。●本株式の取得のお申込みを行う場合には、Information Memorandum及びその抄訳である投資説明書(適格機関投資家以外のお客様には、併せて契約締結前交付書面)をお渡し致しますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断下さい。●お申込みの際に、「外国証券取引口座約款」に基づく、弊社取引口座の開設が必要となります。●エアーズシー証券株式会社は、当資料の分析、またはこれに関連した分析の使用により生じたいかなる損失にも責任を負いません。●エアーズシー証券株式会社の許諾なしに、当資料の一部または全部を引用または複製することを禁じます。●世界的に厳格な金融取引ルールの整備強化の中、カストディアン、アドミニストレーターなどのファンド関係機関からも、お客様に関する情報提供が要請されて来ることも考えられます。その場合、当社はおお客様の同意を得て、ファンド関係機関に個人データを提供することがあります。

エアーズシー証券株式会社 〒110-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 鉄鋼会館 1階
金融商品取引業 関東財務局長(金商)第33号 TEL.03-6225-2747(代表)
宅地建物取引業 東京都知事(3)第94155号 メールアドレス: info@airssea.co.jp

年7・2%で10年間複利運用すれば、投資資金が2倍になる「72の法則」を実現している商品もあります(図2参照)。資産を2倍にするには、現在の日本の国債では300年以上かかります。米国10年国債でも20年かかる計算ですので、いかに当社が取り扱うヘッジファンドが有効かお分かりいただけるかと思えます。——エアーズシー証券を選ぶメリットは何でしょうか。
栗原 まず、当社がヘッジファンドを専業で扱う独立系の証券会社であることです。現在の基幹商品はスイスに拠点を置く欧米ではヘッジファンドをポートフォリオに組み込み、資産を形成されている富裕層の方が多くいらっしゃいます。日本ではまだ認知度が低いヘッジファンドの有用性を広めていくことも使命とお考え、お客さま本位の商品販売に特化できるのも、特定の金融機関系列に属していない当社の強みといえます。
——最後に、長期の資産運用を支えていく貴社の今後の抱負をお願いします。
栗原 現在、日本の成長率は他の先進国に比べ非常に低い状態です。過剰債務、金利差の拡大、円安など円資産が目減りしているいま、外貨による運用をポートフォリオに組み入れることが必要です。それにはまさに、低リスクで安定的なヘッジファンドの運用が有効と考えます。当社では世界基準の運用商品を提供するプラットフォームをさらに進化させることで、お客さまが「人生100年時代」も安心して暮らせるよう、資産形成に役立つ提案を今後も追求してまいります。



栗原友紀
(くりはら・ともりの)
エアーズシー証券株式会社
代表取締役

を中心として約8000のファンドが存在し、約3・8兆米ドル(約410兆円)の運用残高で、名だたる機関投資家や年金基金、富裕層の期待に応えています。

3カ月で延べ49件までの勧誘しかできないヘッジファンド

——なぜ「ヘッジファンドは危険」という誤解が広がっているのでしょうか。
栗原 ニュースやドラマなどの影響が大きいことが考えられます。また、運用手法が複雑で、勧誘説明にも高度な知識が必要なことから、的確に説明できるアドバイザーが少ないという課題もあります。

さらに日本では海外のヘッジファンドは金融庁のルールで少数私募形式での販売が多く、3カ月で延べ49件までの勧誘しかできません。商品名や内容を広告やホームページで開示できないので、大手証券会社では収益が見合わず扱うケ

スが少ないことも、なかなか認知が広がらない原因の一つではないかと思えます。——プロが運用するヘッジファンドの購入には億単位の資金が必要ですが、個人でも購入できるのですか?
栗原 海外の著名なヘッジファンドは通常、機関投資家など金融のプロたちが運用を任せる商品です。最低でも1億円以上、中には100億円以上でないと購入できない商品もあります。

しかし当社は、世界的な大手家具製造販売会社のアセットマネジメント会社経由で、海外の著名なヘッジファンドに投資できるプラットフォームを獲得しているので、世界の富裕層や金融のプロしか投資できないファンドを扱うことができます。そのため、アメリカで運用残高トップ10に入るような著名ファンドも、個人で10万米ドル相当から購入することが可能です。現在ではお客さまの運用方針に合わせたファンドの選択ができる充実